畑宿で見つけた箱根のたからもの

湯本小学校　三年　野澤　鈴

わたしのすむ箱根町には、すてきなものがたくさんあります。その中でも、わたしはよせ木細工が一番すきです。

今年の五月に、町たんけんで、畑宿よせ木会館に行きました。そこで、しょく人の石川さんから、よせ木細工の作り方や、ざいりょうとなる木のしゅるいなど、たくさんのことを教えてもらいました。たとえば、一つのよせ木細工の作ひんをつくるのに、三~六しゅるいの木を使うそうです。また、よせ木細工を作るときに大へんなことは、木と木をピッタリとかさねることだと聞きました。一つのブロックを作るときに一ミリメートルずれたとすると、十このブロックを合わせたときには一センチメートルずれてしまうので、きれいなもようができないそうです。わたしには、ぴったりかさねるなんて、できないなと思いました。それができるしょく人さんたちは、とってもすごいなと思いました。

また、石川さんがむかしから使っているきかいも教えてくれました。そのきかいを使うと、木を集めてブロックにしたよせ木を、うすくけずることができます。わたしもやってみると、ぼうをうごかすのはちょっとおもくて大へんだったけれど、上手にうすくけずることができました。けずりたてのよせ木細工は、木のいいにおいがしました。ちょっとスースーするようなにおいです。石川さんから

「それは、クスノキのにおいだよ。」

と教えてもらいました。自分でけずった木細工は、本のしおりにして、今でも大せつに使っています。

畑宿よせ木会館の近くには、箱根きゅうかい道があり、そこも見に行きました。石だたみがずっと続いていて、空にはすぎの木のはっぱがたくさんあり、とてもすずしかったです。耳をすますと、たきから落ちる水の音や鳥のなき声が聞こえました。箱根町は、自ぜんがとてもゆたかです。

でも、よせ木細工は木を使うので、木を切らなければなりません。また、ふだん使っているえんぴつやノートも木からできていて、たくさん使うと、その分木を切って使うことになります。そうすると、生き物のすみかや食べ物が

なくなってしまいます。だから、わたしは、そうならないように、今使っているえんぴつや道具を大せつに使っていきたいです。とくに、わたしは落とし物やなくし物が多いので、これからは気をつけたいです。

小さなことかもしれません。でも、その小さいことのつみかさねが、よせ木細工のように、すてきな作ひんにつながることもあります。だから、わたしは、自分にできることをちょっとずつして、箱根町の自ぜんを大せつにしていきたいです。